

10の音(とおのおと)がこだまする

当尾の郷会館で行われる「とおのおと」の開催が目前に迫ってまいりました！

素敵な展覧会になること間違いなしですので、みなさまぜひ足をお運びください！

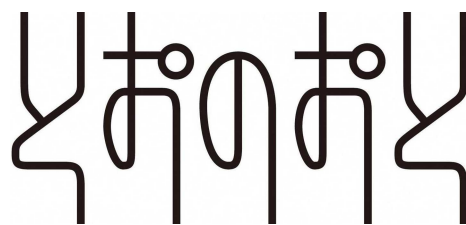
展覧会概要

会期：2020 年 2 月 15 日(土)～2 月 29 日(土)

時間：10:00～16:30

会場：当尾の郷会館(1F、2F、体育館、プール等)

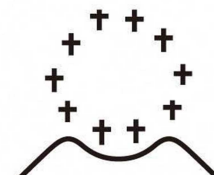
(※土日祝日は、加茂駅から無料シャトルバスを運行します。)



出品作家

伊吹 拓、奥中 章人、加藤 史江、釜本 幸治、林 直、林 真衣、原田 要、冬耳、辺口 芳典、MOYA
ディレクター(展覧会を構成する人)

片山 和彦、窪山 洋子、小林 和華子、東 哲平



ボランティアスタッフを募集しています！

展覧会の受付、体育館での作品を見守っていただくスタッフを募集しています。

作家もできるだけ現場に駆け付けますが、特に平日は勤めている作家も多いため、当尾地域のみなさまのお力をお貸しいただきますようお願いいたします。

時間は次のとおりとなりますが、少しの時間だけでも結構ですので、ご協力をお願いいたします。

《ボランティアスタッフシフト時間》(配置位置は裏面をご覧ください)

【10:00～12:30】【12:30～14:30】【14:30～16:30】

「とおのおと」ってなに？どんなことをするの？

当尾の郷会館において 10 人(とお)の作家と 4 人のディレクターが織りなすアート展です。

当尾の郷会館 CREATION PROJECT で会館 2 階研修室をアトリエとして利用している「冬耳」さんが発起人となり企画されたものです。

個人展示だけでなく、2 人展(2 人の作家が 1 つの空間で展示)も行いますので、10 人の作家と 4 人のディレクターによる共鳴に乞うご期待！

オープニングイベントや、期間中の休日には「当尾 oh! BaaaaaZ」さん等の出店も企画しております。

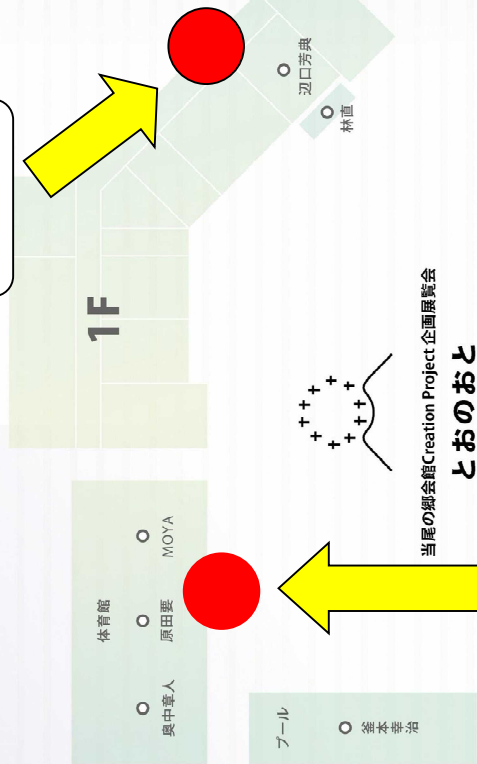
1/4・18 に行われた「煙と鐘」セッションの様子



京都府木津川市加茂町の山間部に位置する当尾(とおの/とうの)地域には、はるか昔、数多の塔が建立されていました。象徴的な塔が連なったその道程が当尾という名称の由来とされています。そして時は流れ2020年、地域交流施設として当尾の人々に愛される「当尾の郷会館」(旧当尾小学校)において、木津川市に活動拠点を置く6人の作家にガスト作家が加わり、10名の作家たちによる展覧会「とおのおと」を開催します。更に様々な分野で活躍する個性豊かな4人の専門家をディレクターとして迎え入れ、展示に関して学校空間のポテンシャルを活かしたキュレーションを協議していただきます。『とおのおと』はそれぞれの作家が、ベアを組んだ3つの二人展と、個々の作品展示によって構成された展覧会となります。同時多発的に提示された表現の多様性、それぞれの作家が紡ぎ出す美の共演が共鳴と反響を繰り返し、廻り合わせ、調和を図りながら進化を遂げます。閑静で自然豊かな山間部で繰り出される壮大なセッションとなるであろう「とおのおと」を是非で体感下さい。

とおのおと実行委員会代表 冬耳

受付



とおのおと

当尾の郷会館Creation Project 企画展覧会

作品見守り



奥中章人 × 冬耳

映像・インスタレーション 絵画

二人のキーワードは、リフレクシオン。お互いの作品をリフレクシオンし合い、隣家のように、手近のように、ゆらゆらと無限に広がる世界を創る。銅像室、一理(にむら)を調べる部屋で、彼らの創作の原点を見出すことができます。

小林和華子



伊吹拓 × 辺口芳典

絵画 詩・音楽

伊吹拓と辺口芳典、二人の共創は2020年の年明けともしにスタートする。「鐘と煙の数回廊」をテーマに幾つもの無縁に広がる世界を創る。銅像室、一理(にむら)を調べる部屋で、彼らの創作の原点を見出すことができます。

窪山洋子



窪山幸治 × 林真衣

彫刻 絵画

ふたりに共通するモチーフは「氷」だ。互いに扱う素材は異なるが、記憶や時の流れ、水面の揺らめきのような瞬間的なイメージを、色彩で重層的に描き、窪山幸治は銅金を用い、真鍮など、より子どもの姿として現す。プール、水櫃、水場など、水にまつわるイメージに溢れている。彼らが教えるにあらわすのは海泳の夢、しばし記憶の「水尾」水の解を連ね、時の流れに流れる。

片山和彦



MOYA × 林直

写真 ストリートアート

林直氏とMOYA氏の2人展では、写真とグラフィティというアートの中でも同様に位置するセンスがぶつかる注目の展示となる。ノスタルジーと今が共存する無限な世界観のなかで「何か」に出会ってもらいたい。

ヒガシテツペイ



原田要 × 加藤史江

立休 インスタレーション

二人の作品が有機的なつながりを持って構築され、命を宿している空間。そこは、虫のサイズにあって作品の世界に潜り込むミクロコスモスで、驚異を作品の中に誘い込み、取り込もうとするだろう。

小林和華子



とおのおとディレクター

(写真左から)

片山和彦

(GALLERY WKS.)

ギャラリストGALLERY WKS. 2002年開設、大阪西天満、マンションの最上階にあるユニークな現代美術のギャラリー、幅広い表現の場として知られている。

小林和華子

(木津川市教育委員会文化財保護課)

木津川市役所に文化財技師として入庁するも、専門分野(平安時代の仏像)から1000年超えて現代アートの担当になる。木津川アート2018では東洋画を、気づけば黄色のおととディレクターに。

窪山洋子

(BLOOM GALLERY)

ブルームギャラリー代表。写真を軸に西日本にゆかりのある作家を中心に紹介。近年は作家の作品だけでなく地域や個人が保有する写真のアーカイブも扱う。

ヒガシテツペイ

(RBTXCO)

関西を中心に国内外に熱狂的なファンをもつRBTXCOのアートディレクター。アートにも精通しており、ブランドの活動として様々なアーティストにコラボも多数展開する。

ディレクターによる作品鑑賞ツアー

■ 2月15日(土)
■ 13:00ー14:30頃
とおのおとの展示構成を牽引してきた4人のディレクターと一緒に展示会場をまわります。個性あふれる面々のそれぞれの視点を変えて、作品のご鑑賞をお楽しみ下さい。